

自治連よなご

第58号

令和2年(2020年)3月1日発行

発行 米子市自治連合会
(事務局 米子市総合政策部地域振興課内)

編集 『自治連よなご』編集委員会

住民に必要とされる自治会づくり

勝田町西区自治会 会長 八幡 廣子

年々少子高齢化が進む今、地域が抱える課題は、自治会運営、改選期になると「世代交代」「若返りを」等と声は出ても、中々世帯の少ない地域では毎回悩むところ です。

先般、自治会づくりについてのお話を聞く機会に恵まれ、参加いたしました。講師は、東京都立川市大山自治会(1,600世帯・人口4,000人)で15年間自治会長をされ、加入率100%・孤独死ゼロを実現された佐藤良子氏です。

自治会はなぜ必要なのか

人間みんな、損得で物事を考えると、一理あるけれど、ボランティア社会には、沢山の救いがあります。思いやり、助け合いの社会です。人間一人では生きられません。特に災害や非常時のことは常に考えておかなければなりません。とにかく、自分の行きたい学校がある、帰りたい家がある、住みつづきたい地域がある、ここで

幸せだった、と思えるような街、まち、を一人ひとり心をひとつにし、仲間みんなで作り上げることが、自治なのではないか。そして、人助けの出来る社会、行政に頼らない自治組織を私は社会的発明と呼んでいます。人を助け、人に助けられる自治会でありたい。住民主体、新しい「近隣、向こう三軒両隣」の支え合い、支援、そして1.元気・2.陽気・3.根気・4.強気・5.やる気の気力を出して自分達のできることは、自分達で行動をすることをモットーに、地域、活動団体との連携等協力体制で活動していただきたい・・・と締めくくられました。

講演を聞いて感じた事は、人口の大・小に係らず、住民が、困ることに耳を傾け、言葉一つを大切に、地域を愛し、以前は当たり前のように行われていた、「ちょっと味噌・醤油の貸し借り・惣菜のやり取り」等みんなで支え合う魅力ある地域に、との思いになって元気をもらえた一日でした。



「住み続けたい地域をつくるため! 大山自治会の4本の柱」

市=市民主義、市民が主人公の町
能=人材バンク、能力のある人の発掘
工=工夫をしよう、
アイデアによって生き返る町
商=ビジネス・高齢者に仕事を!



令和元年度 秋の叙勲 旭日単光章受賞 福生西地区 福生西五区自治会 会長 福景 順一 氏

令和元年度総務大臣表彰 受賞 福米西地区 新開東一区自治会 会長 前田 一三 氏

令和元年全国自治会連合会会長表彰 受賞 夜見地区 夜見四区自治会 会長 松本 眞 氏

「写真で見る地域の活動」



明道地区・ 紺屋町自治会

毎年、8月23日に「地藏さん祭り」を開催しています。金魚すくいやスーパーボールに夢中な子、昔からあるラムネの飲み方の分からない子等、賑やかな子どものお祭りです。



住吉地区・ 中ノ海二区自治会

当自治会母体の安倍彦名団地発足30周年を記念した防災訓練に消防ポンプ車を招聘、初挑戦の中海護岸放水訓練は、演技者・見学者共々興奮冷めやらぬ訓練となりました。



崎津地区

11月9日、崎津公民館祭前夜祭を開催しました。各自治会の芸達者が次々と発表をする中、祈りの楽器シター奏者白井朝香さんと崎津4区出身のソプラノ歌手寺田美穂さんによる地元初の演奏会が開催されました。演奏の最後には「ふるさと」

を全員で歌い、会場がひとつとなった一夜でした。



淀江地区

日吉神社の神幸神事は、370年の長き伝統と幾多の変遷がありながら、現在まで盛大に続いてきた伝統的な神事で、子ども達からお年寄りまで何らかの形で関わる淀江地区の誇りであり、宝だと思っています。



就将地区

10月6日に「賀茂神社天満宮の神輿巡業」が行なわれました。午後から神輿巡業が始まり約100名を越す子ども達が一斉に神輿を引き町内を回り地元の人々が神輿を迎えました。お旅所でお菓子や飲み物が振舞われ子ども達

も大喜びでいただきました。無事町内を回り子ども達の良い思い出となり終了しました。



彦名地区

秋の「彦名・水鳥ウォーキング大会」は、クイズに答えながら5kmを歩きます。豚汁と新米を食べながら正解発表。さつま芋付の無料の参加賞に笑みが溢れていました。



河崎地区・ 河崎新田自治会

河崎新田自治会では、年2回の防災訓練を実施しています。本年度第1回訓練は、9月1日に地震を想定した避難訓練を行いました。92名の参加者で協力して、けが人の搬送訓練も実施できました。

医療・保健・福祉 ホスピタウンネットワーク

医療法人 社会福祉法人 **真誠会**

米子ホスピタウン (河崎) 弓浜ホスピタウン (大崎)

米子中央ホスピタウン 外浜ホスピタウン 高齢者生活支援隊
(西福原、富士見町、皆生) (和田町、富益町、夜見町)

米子市河崎580 TEL 0859-24-5666 <http://www.hospitown.or.jp/>

社会福祉法人尚徳福祉会
認定こども園 **ベアーズ**

〒683-0257
米子市榎原1889-6
TEL (0859)39-7100
FAX (0859)39-7101

ホームページアドレス
<http://stg21.com/bears/>

巖地区・二本木自治会

遊休農地を解消するため、今年度から「もち米作り」を始めました。自治会で田植えや稲刈り、餅つき、しめ縄づくりなどに



取り組みながら、住民同士の交流を深めています。

(田植え後の写真)

富益地区

令和元年度の自治連合会役員研修は、7月21日(日)「妻木晩田遺跡」に出かけ、ボランティアガイドの案内での史跡



巡り、その後「上淀白鳳の丘展示館」を見学し、有意義な研修となりました。



永江地区

年に一回の地区防災訓練は70名の参加でした。公民館内での煙避難体験や、子ども達も一緒に防災クイズで景品をもらったり、心肺蘇生を頑張りました。炊き出しは非常食「缶入りパン」や「リゾット」を食べてみました。



尚徳地区

尚徳では、8月23日に「夕暮れコンサート」を開催し、がいな太鼓尚徳子ども連、尚徳中学校吹奏楽部の演奏などに、会場の観客がワンチームとなり盛り上がりました。



成実地区・橋本自治会

自治会夏の恒例行事「地藏さん祭り」、地内に点在するお地藏さんに精進料理をお供え、その後、芸達者な方々のパフォーマンスを見ながら料理をいただき、ソーメン流しで終わりました。



五千石地区・八幡一区自治会

令和初めての巨勢神社大鳥居のしめ縄づくりは、当自治会が担当でした。地区民が神社総代の家に集まり、慣れない作業に四苦八苦しながら何とか完成させました。



大和地区・桜台自治会

第37回桜台祭りを7月13日に開催しました。今年はフィリピン女性ディオマックデバオンステージ、大雨の中、観客と盛り上がり、最後、花火を打ち上げ最高潮で終わることが出来ました。



福生西地区

昨年10月に、昭和56年以来の新田神社の遷宮を行いました。元号が「令和」となり、新たな気持ちで取り組んだ遷宮に、住民一人ひとりの健康と地域の更なる発展を祈願しました。

美保動物霊園

MIHO FOREST

米子市河崎1299番地(ランドワーク内)

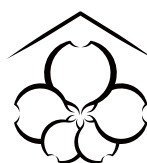
受付 ☎ 0120-124-619

TEL (0859) 24-5619 FAX (0859) 24-2472

✉ info@miho-forest.jp HP <http://miho-forest.jp>

家族想いの葬儀

家族葬



さくら

家族葬さくら 米子 🔍 検索

鳥取県米子市内町124 | TEL 0859-36-6611

防災について家庭で・地域で考えてみましょう！

地域の絆と地域の防災力向上をめざして

予測が難しい自然災害、もしも災害が起きた時、私たちはどのように対処したらよいのでしょうか？これまでの常識が通用しない「異常気象新時代」になったと言われているなか、地域の安心・安全に役立てるため、災害

時に役に立つ地域の資源の発見、地域の絆づくり、地域の防災力を高めるため、地域の防災活動について今一度、ご家庭、地域等で考えてみる機会を作ってみてください。

米子市常任委員視察研修報告 米子市自治連合会研修委員長 加藤 朗

令和元年度の常任委員の視察研修は平成30年度西日本豪雨・アルミ工場爆発事故がおこり甚大な被害が発生した、岡山県総社市を訪問しました。近年、想定外の災害がおこっている現状を考えると、各自治会でどのように備えておくことが必要なのか考える中、被害があったが、迅速に的確な対応をされた総社市、自主防災組織活動で犠牲者ゼロであった総社市下原地区の話聞くことで、各地域の防災について、改めて考える機会となる研修を企画しました。

当時の状況、取組活動を聞く中で犠牲者ゼロで避難できた要因の一番のベースとなっていること、そして、自主防災組織を機能させるために一番重要なことは**普段からの「地域力」**が非常に重要であることでした。この「地域力」は住民同士の顔の見える関係作りです。毎年行う

防災訓練、子どもの防災訓練、防災カルタ、地区運動会での防災クイズを行うなど、住民に対して日頃からの防災の意識づけに力を入れ、住民が一体となって取り組む活動を通して、地域住民の繋がりをつくっておられることでした。防災活動に近道はないことから、私達の地域に合った、できることから地道に繰り返し取り組む活動を行っていくことの重要性、向こう三軒両隣から顔の見える関係作りを進める大切さ、住民主体の防災組織が地域には欠かせないことなど再認識しました。

安心・安全で豊かで住みやすい地域にしていきたい思いは皆同じです。研修会を通して下原地区の方々熱心に意見交換できたことは、今後の私たちの防災活動の取組に活かせる、また、見直すきっかけになるものと思いました。

Q 大災害に遭遇して一番痛感したことは

A：日頃からの準備（訓練等）が大事であること。日頃の町内会活動、祭り等の行事を通しての活動がいざという時に力を発揮できるものと感じた。



Q 避難生活で必要となった品物3品

- A：○薬（処方薬）・お薬手帳
○携帯電話充電器
○貴重品（現金・身分証明書）

原子力防災訓練に参加して 加茂三区自治会 会長 富田 隆

令和元年11月10日（日）に国・鳥取県が実施する原子力防災訓練に参加した。

これは、島根原子力発電所の事故を想定した原子力災害に備えて、自治体、自衛隊、警察、医療等の関係機関や地域住民、介護施設等の入所者が避難訓練を行うものである。

当日は、よく晴れた青空のもと、加茂地区から約100名が小学校や公民館に集合しJRやバス、または自衛隊のジープやヘリ等を用いて、避難先の名和農業者トレーニングセンターまで避難し、汚染検査を受けるなどして昼

過ぎには訓練を終了した。

私は、日本語が分からない外国人役で参加し、汚染検査時に簡易な英語で、係員から説明を受けたが、理解しやすい丁寧なものだった。個人的な感想として、このような避難訓練に参加できて良かったと思っている。この経験は、実際に災害が発生した場合にスムーズな対応を可能にすると思う。



編集後記

この度の58号では「写真で見える地域の活動」をテーマに各地域での活動を紹介しました。各地区ごとに多種多様な活動がある事を実感しました。

伝統行事の継承・各種イベントであったり、さらに、全国各地で頻発する自然災害を想定した防災訓練が各地で実施されているようです。

災害は予告なしに突然やってくるもの、普段から自治会活動のひとつとして、防災訓練は特に大事なことだと思っております。地域の安心・安全のため、地域の絆を深めるためにも、ぜひ各地で実施していただきたいと思います。

最後になりましたが、記事をお寄せいただいた皆様にお礼と感謝申し上げますとともに、記事に関する要望等あればお寄せ下さい。今後とも、皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。